

リハビリテーション学部 シラバスの変更一覧

学年	ページ	開講科目
1	35	解剖学演習
1	49	トランスレーショナルセミナーⅠ（PT）
1	54	トランスレーショナルセミナーⅠ（OT）
1	55	臨床実習Ⅰ（体験実習）
2	63	自然環境と災害
2	67、68	生理学実習
2	69、70	運動学実習
2	77	内科学
2	79	整形外科学
2	99	トランスレーショナルセミナーⅡ（OT）
2	104	高次脳機能障害作業療法評価学演習

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa03				
	●		●							
科目名	解剖学演習				単位認定者	大和田宏美		評価の方法	試験（口頭試験）	80 %
対象学科等必修・選択配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		試験（レポート）	20 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、解剖学Ⅰで学んだ骨および筋の名称を実際の骨模型および筋模型を用いて立体的な位置関係を確認する。また、骨や筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について、人体でイメージできるようになるよう学修する。									
到達目標	1. 各骨の位置、各筋の位置、筋の起始・停止、筋の作用を理解し、骨模型および筋模型通してをイメージできるようになる。 2. 骨格系・筋系・末梢神経系の位置関係を学修し、人の体の動きについて理解を深めることで臨床に繋げることができるようになる。									
学修者への期待等	グループワーク中心の講義となります。講義以外にグループで骨格系・筋系・末梢神経系について、骨模型や筋模型を使用して、互いに問題を出題しあい復習を行ってください。 理学療法及び作業療法の専門知識を学ぶ上で必要になる基本的な知識を身に付けてください。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	骨模型：骨の位置関係、連結					授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、UNIPAに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間各1時間程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
2	骨学演習1：上肢骨①鎖骨、肩甲骨								大和田 宏美 大橋 孝子	
3	骨学演習2：上肢骨②上腕骨、尺骨、橈骨								大和田 宏美 大橋 孝子	
4	骨学演習3：上肢骨③手部								大和田 宏美 大橋 孝子	
5	骨学演習4：胸郭・脊柱（頸部）								大和田 宏美 荒牧 隼浩	
6	骨学演習5：脊柱（胸部・腰部）								大和田 宏美 荒牧 隼浩	
7	骨学演習6：下肢骨①骨盤、大腿骨								大和田 宏美 大橋 孝子	
8	骨学演習7：下肢骨②脛骨、腓骨、足部								大和田 宏美 大橋 孝子	
9	筋模型：筋の位置関係、浅層筋および深層筋の位置関係					授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、UNIPAに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間各1時間程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
10	筋学演習1：上肢の筋①上肢帯の筋								大和田 宏美 大橋 孝子	
11	筋学演習2：上肢の筋②上腕・前腕・手部の筋								大和田 宏美 大橋 孝子	
12	筋学演習3：体幹の筋								大和田 宏美 荒牧 隼浩	
13	筋学演習4：下肢の筋①骨盤帯の筋								大和田 宏美 大橋 孝子	
14	筋学演習5：下肢の筋②大腿・下腿・足部の筋								大和田 宏美 大橋 孝子	
15	腕神経叢、腰神経叢の位置関係								大和田 宏美 大橋 孝子	
教科書	『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』医学書院 『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能1』医学書院									
参考文献	デジタルアプリ「Visible Body Sute」 『グレイ解剖学 原著第3版』塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER 『ホネタン 骨単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』 『ニクタン 肉単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』									
備考	PTA・PTB・PTC+OT 3クラス体制 自己学修用にスケッチブック（A4）、色鉛筆（12色）を準備する。 レポート課題はスケッチブックの提出とする。 スケッチブックは、骨と筋のスケッチと各部位の名称等の記載が必要である。 スケッチブックは、それぞれ骨学・筋学講義終了後に提出し、採点后にスケッチブックを返却する。 骨および筋について、学修できているかについて口頭試験で評価する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

						科目ナンバリング									
						ReMa01									
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力										
	●	●	●	●											
科目名	トランスレーショナルセミナーⅠ				単位 認定者	大和田宏美 伊藤大亮		評価 の方法	授業内課題 (レポート等)	100 %					
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位								
						授業時間数	30 時間								
					授業形態	演習	授業回数		15 回						
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅠでは、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー(講義の受け方、各種レポートの作成方法など)と、理学療法を知ることの重点を置く。また、グループワークなどを通じて、理学療法に関する様々なテーマについて学修する。														
到達目標	1. 大学生活を有意義に送るための基本的な知識やスキルを身につける 2. 理学療法を知り、大学での学びを充実したものとするための契機とする														
学修者への期待等	大学生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、教員の話の聞いたりといろいろな考えに触れてほしい。														
回	授業計画					準備学修									
1	【1～2年生合同】理学療法を学ぶ意義					理学療法とは何かについて考えてくる。(30分程度)									
2	【1～2年生合同】理学療法を学ぶということ ディスカッション														
3	大学の教育方針 3つのポリシーについて					学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認してくる。(30分程度)									
4	カリキュラムについて 理学療法士になるには														
5	グループワーク①自己紹介 理学療法とは					授業内容をノートにまとめる。(復習30分程度)									
6	グループワーク②理学療法士の活躍の場														
7	【2専攻1年生合同】理学療法士と作業療法士 (仕事内容の比較、共通点、特徴等)														
8	大学生活での学び①社会生活、大学生活のルール														
9	大学生活での学び②講義の受け方														
10	大学生活での学び③学習計画の立て方、自己管理能力														
11	大学生活での学び④情報リテラシー														
12	大学生活での学び⑤文献検索の仕方、図書室の利用法														
13	大学生活での学び⑥心の相談室														
14	大学生活での学び⑦ハラスメント														
15	大学生活での学び⑧先輩から学ぶ大学生活														
教科書	「わたし」を伝えるコミュニケーションワークブック 晃洋書房														
参考文献	必要に応じて紹介する。														
備考	【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、坂上 尚穂、 小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治、荒牧 隼浩 PTA・PTB・PTCクラス合同体制 (第7回のみPT・OT合同授業) 授業内で担当教員からフィードバックを行う。														

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング									
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa01									
	●	●	●	●											
科目名	トランスレーショナルセミナーⅠ				単位 認定者	外里 富佐江		評価の方法	授業内課題 (レポート等)	100 %					
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位								
						授業時間数	30 時間								
				授業形態	演習	授業回数	15 回								
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅠでは、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー(講義の受け方、各種レポートの作成方法など)と、作業療法を知ることの重点を置く。また、グループワークなどを通じて、作業療法に関する様々なテーマについて学修する。														
到達目標	1. 大学生活を有意義に送るための基本的な知識やスキルを身につける 2. 作業療法を知り、大学での学びを充実したものとするための契機とする														
学修者への期待等	大学生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、いろいろな考えに触れてほしい。														
回	授業計画					準備学修									
1	【1～2年生合同】作業療法を学ぶ意義					作業療法とは何かについて考えてくる(30分程度)									
2	【1～2年生合同】作業療法を学ぶということ ディスカッション														
3	大学の教育方針 3つのポリシーについて					学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認してくる(30分程度)									
4	カリキュラムについて 作業療法士になるには														
5	グループワーク①自己紹介 作業療法とは					授業内容をノートにまとめる。(復習30分程度)									
6	グループワーク②作業療法士の活躍の場														
7	【2専攻1年生合同】理学療法士と作業療法士 (仕事内容の比較、共通点、特徴等)														
8	大学生活での学び①社会生活、大学生活のルール														
9	大学生活での学び②講義の受け方														
10	大学生活での学び③学習計画の立て方、自己管理能力														
11	大学生活での学び④情報リテラシー														
12	大学生活での学び⑤文献検索の仕方、図書室の利用法														
13	大学生活での学び⑥心の相談室														
14	大学生活での学び⑦ハラスメント														
15	大学生活での学び⑧先輩から学ぶ大学生活														
教科書	『「わたし」を伝えるコミュニケーションワークブック』 湯口 恭子 晃洋書房														
参考文献	宮沢賢治の童話でまなぶココロの寄り添い方 外里 富佐江著 CBR出版														
備考	【担当教員】外里 富佐江、齋藤 佑樹、酒井 弘美、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧 第7回のみPT・OT合同授業 課題のフィードバックは授業内で行う。														

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング ROMe01				
	●	●	●	●	●					
科目名	臨床実習Ⅰ（体験実習）				単位 認定者	外里 富佐江		評価 の 方法	実習内容	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	90 時間			
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	実習施設において実際の作業療法を見聞、体験することで作業療法に対する認識を高めることを目的とする。体験実習を通して作業療法士になるための自覚を持つとともに、作業療法士の活動見学や作業療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方など作業療法士に必要な基本的資質を身につける。 また、臨床現場における作業療法士の役割と位置づけ、他職種との連携など、リハビリテーションチームとは何かを学修する。									
到達目標	1. 臨床実習施設の役割と機能を理解する 2. 実際の作業療法場面を見学し、作業療法の業務内容を理解する 3. 見学・体験した内容をまとめ、表現する能力を養う 4. 作業療法士の適性はどのようなものかを見学を通して認識し、今後の学修に対する動機付けとする									
学修者への 期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ること。									
授業計画							準備学修			
1. 実習期間 【9月22日（月）～10月3日（金）】 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 実習施設でのオリエンテーションや作業療法士の治療業務および理学療法に関連する他部門等を見学する。 3) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内教員から、臨床実習記録および実習生指導報告書をふまえた指導を受ける。 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録（自己学修内容も含む） ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。							ガイダンス及びセミナーに参加すること。			
教科書	適時、資料を配付する。									
参考文献	随時紹介する									
備考	【担当教員】外里 富佐江、齋藤 佑樹、酒井 弘美、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd03				
	●				●					
科目名	自然環境と災害				単位認定者	江川 新一		評価の方法	試験(筆記)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		事前課題	30 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	15 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	自然環境と災害は、深く関係している。産業の発展に伴う地球温暖化は、気候変動を起こし、災害となつて新たな問題を引き起こす。 この科目では、環境問題と自然災害の関連性を学び、過去の歴史から、土砂災害、水害（洪水・浸水）、震災（地震・津波）、火山災害等の自然災害を学修する。災害発生のメカニズムや防災対策、災害時の生命の維持を学び、災害時に対応するための知識を身につける。また、自然エネルギーの現状や今後について理解を深める。									
到達目標	さまざまなハザードにより起きる災害において、災害リスクと、その低減（＝防災）について述べることができる。わが国をとりまく自然環境との共生についてアイディアを述べることができる。									
学修者への期待等	災害リスク低減の一翼を担える保健医療人材として防災に関わり続けてほしい。とくに、リハビリテーションや看護を必要とする人々の個別防災計画立案や災害ケースマネジメントに関わるができるように地域と連携しながら活動できる人材になってほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	災害医学の基礎知識					教科書35章を読んでくること。（30分程度） 授業終了時に概要レポートを提出すること。				
2	東日本大震災とは何だったのか？					学籍番号下1桁と同じ下1桁の章（xx7番なら17章、27章、37章、47章のいずれか）から感じたことをスライド1枚で提出。（1時間程度）				
3	避難所運営ゲーム(HUG)（参加型カード演習）					避難所のあり方について予習してくること。（30分程度）				
4	気候変動					気候変動による災害について各自1枚のスライドを作成してくること。（1時間程度）				
5	災害リスクと仙台防災枠組					思いつくハザード1つについて、ハザードと曝露、脆弱性、対応能力の関係について1枚のスライドを作成してくること。（1時間程度）				
6	Psychological First Aid（ロールプレイ）					災害におけるメンタルヘルスの問題について予習してくること。（30分程度）				
7	災害と向き合ってきた歴史と伝承					さまざまな災害をどう伝承するか、思いつく好事例について1枚のスライドを作成してくること。（1時間程度）				
8	学修成果発表会					保健医療従事者として災害にどのように対応し、事前に防災への貢献ができるかをスライド5枚以内でまとめること。（1時間程度）				
教科書	『東日本大震災からのスタート ―災害を考える51のアプローチ』東北大学災害科学国際研究所編 大学出版部協会									
参考文献	サイコロジカル・ファーストエイド：PFA(https://www.mhlw.go.jp/content/000805675.pdf) 未来へつなごう私たちのBOSAI 2020(https://sendai-resilience.jp/media/pdf/bosai2020.pdf)									
備考	PTOT合同授業。提出したスライドはいくつか授業中に匿名で提示し、Slideなどを用いた匿名性の双方向性議論の対象にします。また、個別にもフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa07				
			●							
科目名	生理学実習				単位認定者	鈴木 裕一		評価の方法	授業内課題 （レポート等）	55 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		試験（筆記）	45 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	40 時間			
					授業形態	実習	授業回数		20 回	
授業の概要	本科目では、生理学Ⅰ・生理学Ⅱで学修した内容について、実際の測定・実験を通し、身体各機能についてさらに理解を深め、その生理学的メカニズムについて学修する。主に反射、筋電図、感覚検査、体組成計測、血圧測定、心電図、肺機能測定、尿組成、神経伝導速度、重心動揺計による測定などを実施する。									
到達目標	①生理学実習の意義を説明でき、計測機器の取扱いができるようになる。 ②腱反射を誘発、体験し、神経の興奮発生と伝導、脊髄反射の機構について説明できるようになる。 ③誘発筋電図を観察し、筋収縮の仕組みとM波、H波の発生する機構について説明できるようになる。 ④体性感覚と特殊感覚の特徴について説明できるようになる。 ⑤身体組成を計測し、筋量と筋力の関係を説明できるようになる。 ⑥脳活動と運動、感覚の関係を説明できるようになる。 ⑦血圧測定が実施でき、血圧と循環調節について説明できるようになる。 ⑧心電図の計測方法と意義と、異常波形を説明できるようになる。 ⑨呼吸機能の測定が実施でき、呼吸機能と調節について説明できるようになる。 ⑩最大酸素摂取量計測の意義と運動負荷について説明できるようになる。									
学修者への期待等	理学療法・作業療法を学ぶのに、また将来現場で力をつけていくための基礎となる知識を得ることを目的としているので、自分自身が直接参加して知識を得るように努力してほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	細胞、顕微鏡観察				細胞に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
2	骨と骨髄、関節				骨と関節に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
3	血液、細胞膜と物質透過				血液、及び細胞膜に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
4	筋系、表面筋電図				骨格筋に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
5	神経系①運動神経伝導速度				神経に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
6	神経系②腱反射（伸張反射）、脳波				伸張反射、及び脳波に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
7	体性感覚①触覚				触覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
8	体性感覚②温冷覚、順応				温・冷覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		

回	授業計画	準備学修	担当
9	特殊感覚①視覚	視覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
10	特殊感覚②聴覚と平衡覚	聴覚と平衡覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
11	身体組成、筋肉量と筋力、体温	身体組成、筋力、体温等に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
12	循環器①脈拍、血圧、静脈	血液循環に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
13	循環器②心音、心電図	心臓に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
14	運動生理学①エネルギー代謝（呼気ガス分析）	運動とエネルギー代謝に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
15	運動生理学②循環機能の調節	運動と循環機能に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
16	消化器系①口腔機能（咀嚼と嚥下）	口腔機能に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
17	消化器系②感覚（味覚・嗅覚）	味覚・嗅覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
18	呼吸器系、呼吸機能（スパイロメトリ）	呼吸に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
19	内分泌系、血糖値測定	内分泌に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
20	泌尿器系、生殖器系、尿組成測定	泌尿器系・生殖器系に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
教科書	『人体の構造と機能』エレインN. マリーブ著 医学書院		
参考文献			
備考	1 学年を 2 クラスに分けて実施する。課題については適宜フィードバックを行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa011				
			●							
科目名	運動学実習				単位認定者	原 和彦・森永 雄		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題（発表）	20 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	40 時間			
				授業形態	実習	授業回数	20 回			
授業の概要	本科目では、複数の測定機器を用い実習体験を通して、運動学において学修した知識を応用する。主に、姿勢、重心、歩行周期、歩行距離の測定や歩行時の筋活動やエネルギー消費などについて測定し、各実験から得られた生体情報を分析・解釈することで、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。									
到達目標	1. 運動学において学修した知識を応用し、筋力・重力、身体とてこ・モーメント・骨関節運動についてそのメカニズムを理解する。 2. 測定機器を用いて、姿勢と筋活動について計測、筋力測定を実施し、分析・解釈できる。 3. 測定機器を用いて、姿勢バランスを計測、動作解析を実施し、分析・解釈できる。 4. 測定機器を用いて、歩行および歩行時の筋活動を計測し、分析・解釈できる。									
学修者への期待等	・この科目の学修には1年次に学んだ「運動学総論」の復習が効果的です。 ・実習では、身体運動や基本姿勢動作を計測対象とするため、動きやすい服装で参加してください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	運動学実習の概要、生体力学の実習①（筋力、重力など）				基礎運動学p19-46を予習し、講義内容への理解を深めること（30分程度）				原 和彦 森永 雄	
2	生体力学の実習②（身体とてこ、モーメント、骨関節運動）				基礎運動学p82-88、p125-138を予習し、講義内容への理解を深めること（30分程度）				原 和彦 森永 雄	
3	実習1（姿勢と筋活動：計測）				全体発表とレポートの準備・作成を行うこと（60分程度）				原 和彦 森永 雄	
4	実習1（姿勢と筋活動：グループワーク）								原 和彦 森永 雄	
5	発表1（姿勢と筋活動）								原 和彦 森永 雄	
6	実習2（筋力測定－測定肢位・測定部位の違い：計測）								原 和彦 森永 雄	
7	実習2（筋力測定－測定肢位・測定部位の違い：グループワーク）								原 和彦 森永 雄	
8	発表2（筋力測定）								原 和彦 森永 雄	
9	実習3（姿勢バランス：計測）								原 和彦 森永 雄	
10	実習3（姿勢バランス：グループワーク）								原 和彦 森永 雄	
11	発表3（姿勢バランス）								原 和彦 森永 雄	
12	実習4（動作解析：計測）								原 和彦 森永 雄	
13	実習4（動作解析：グループワーク）								原 和彦 森永 雄	
14	発表4（動作解析）								原 和彦 森永 雄	
15	実習5（歩行計測：計測）								原 和彦 森永 雄	

回	授業計画	準備学修	担当
16	実習5（歩行計測：グループワーク）	全体発表とレポートの準備・作成を行うこと（60分程度）	原 和彦 森永 雄
17	発表5（歩行計測）		原 和彦 森永 雄
18	実習6（歩行時の筋活動：計測）		原 和彦 森永 雄
19	実習6（歩行時の筋活動：グループワーク）		原 和彦 森永 雄
20	発表6（歩行時の筋活動）		原 和彦 森永 雄
教科書	「基礎運動学 第6版補訂」医歯薬出版 *1年次購入済 「エッセンシャル・キネシオロジー原書第3版 機能的運動学の基礎と臨床」 南江堂 *1年次購入済		
参考文献	「身体運動学 関節の制御機構と筋機能」 メジカルビュー社		
備考	【特性】ICT教育、測定機器を用いた実験形式が中心。1学年を2クラスに分けて実施する。 【評価】発表とレポートなどの授業内課題がない場合は評価不可となるので注意してください。 授業内課題は講義の中でその都度フィードバックを行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
原…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）に計19年間勤務している。その大学関連病院での運動疾患、中枢疾患の日々の効果検証などの臨床研究を継続してきた経験を生かして、理学療法を行う上で必要となる運動学を指導する。 森永…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院、老人保健施設、通所施設）に計8年間勤務した経験を活かし、運動学や測定機器を用いた運動学研究を指導する。

						科目ナンバリング							
						ReFb05							
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力								
			●										
科目名	内科学				単位 認定者	田林 暁一		評価 の方法	試験(筆記)	80 %			
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期 <th>単位数</th> <td>2 単位</td> <td>受講態度</td> <td>20 %</td>	単位数	2 単位		受講態度	20 %			
	O T	必修	2 年			授業時間数	30 時間						
					授業形態	講義	授業回数		15 回				
授業の概要	内科学では、主に身体の臓器（内臓）を対象とし、内科疾患に関する診断の進め方、臨床データの解釈、症候、症状、原因、特徴、治療などについて学ぶ。循環器疾患、内分泌・代謝性疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、肝疾患、血液疾患などの様々な疾患についての理解を深め、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を学修する。												
到達目標	1. 代謝性疾患の病態と診断・治療について説明できる。2. 循環器疾患の病態と診断・治療について説明できる。3. 消化器疾患の病態と診断・治療について説明できる。4. 腎泌尿器疾患の病態と診断・治療について説明できる。5. 呼吸器疾患の病態と診断・治療について説明できる。6. 内分泌疾患の病態と診断・治療について説明できる。7. 血液疾患の病態と診断・治療について説明できる。8. 免疫疾患の病態と診断・治療について説明できる。												
学修者への期待等	第2回から15回講義に際し、授業計画の予習、及び講義後1～2日目に講義内容を30分間復習してください。代謝性疾患では前回の講義内容について復習小テストを実施します。												
回	授業計画					準備学修			担当				
1	医学への関心度（一般的な医学情報に関する質問）【反転授業】					医学一般に関する学修			田林暁一				
2	代謝性疾患Ⅰ：肥満、メタボリック症候群、糖質代謝【反転授業】					第2回講義の30分間の予習			田林暁一				
3	代謝性疾患Ⅱ：糖尿病、脂質代謝【反転授業】					第3回講義の30分間の予習及び第2回講義の30分間の復習			田林暁一				
4	循環器疾患1：総論・循環器疾患の病態					講義前、授業計画に該当する部分の教科書を一読する（30分程度）。講義後、教科書の該当箇所とレジュメを読んで理解し、内容を復習する（90分程度）。			西條芳文				
5	循環器疾患2：心不全の診断や治療								西條芳文				
6	循環器疾患3：虚血性心疾患の診断や治療								西條芳文				
7	循環器疾患4：末梢動脈疾患の診断や治療								西條芳文				
8	呼吸器疾患1：総論・呼吸器疾患の病態								西條芳文				
9	呼吸器疾患2：慢性閉塞性肺疾患の診断や治療								西條芳文				
10	呼吸器疾患3：間質性肺炎、誤嚥性肺炎の診断や治療								西條芳文				
11	内分泌疾患（病態・診断・治療）								西條芳文				
12	消化器疾患（病態・診断・治療）、臓器移植								宮城重人				
13	血液疾患（病態・診断・治療）								西條芳文				
14	免疫疾患（病態・診断・治療）								西條芳文				
15	臓器移植・腎泌尿器疾患（病態・診断・治療）								宮城重人				
教科書	『Crosslink basic リハビリテーションテキスト内科学』メジカルビュー社												
参考文献													
備考	P T・O T合同授業												

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb07				
			●							
科目名	整形外科科学				単位認定者	佐野 徳久		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科等必修・選択配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位			
	O T	必修	2 年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	運動器には、脊柱、骨盤、関節、手、足などの器官があり、骨、軟骨、靱帯、筋、血管、皮下組織、脊髄および末梢神経などの組織が含まれる。運動器の病態には、これらの組織の炎症、腫瘍、変性、循環障害などの病態と、先天性障害や変形、骨・関節の外傷などの運動器に特徴的な病態がある。本科目では、運動器疾患に関する基礎的な知識を身につけ、運動器疾患の診断、治療について学修する。									
到達目標	1. 整形外科で扱う疾病や外傷、先天性障害の特徴、病態が理解できる。 2. 整形外科疾患に対する診断や治療、リハビリテーションの位置づけについて説明できる。									
学修者への期待	整形外科科学の外傷や疾患について学び、予習と復習をおこなってください。また、運動学、機能解剖学、運動学実習および3年次に学ぶ運動器障害理学療法学などの科目と繋がりも意識しながら、整形外科科学を学んでください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	基礎科学(骨構造、修復と再生)、代謝性骨疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				佐野 徳久	
2	診断と検査 治療(保存療法と手術療法)				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				佐野 徳久	
3	骨・関節感染症、関節リウマチ				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				佐野 徳久	
4	変形性関節症とその類縁疾患 先天性骨系統疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				佐野 徳久	
5	骨腫瘍・軟部腫瘍 四肢循環障害と阻血壊死性疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				佐野 徳久	
6	スポーツ傷害総論				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
7	小児とスポーツ				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
8	超音波診療				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
9	脊椎疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
10	肩関節・肘関節疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
11	股関節疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
12	膝関節疾患 1				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
13	膝関節疾患 2				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
14	足・足関節疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
15	外傷・救急疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
教科書	「標準整形外科科学」医学書院									
参考文献										
備考	P T・O T 合同授業 1～5 回目は遠隔（オンデマンド）で実施する。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性) ※該当者のみ記載										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa02				
	●	●	●	●						
科目名	トランスレーショナルセミナーⅡ				単位 認定者	酒井 弘美		評価の方法	授業内課題 （レポート等）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題 （発表）	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅡでは、良好な人間関係を構築する姿勢や態度を養い、学生、社会人、医療従事者として求められるコミュニケーションスキルの修得を目指す。また、グループワークなどを通じて、作業療法に関する様々なテーマについて学修する。									
到達目標	1. 相手の考えを受容し、認めることができる 2. 相手の意図していることを汲み取ることができる 3. 相手に合わせて自分の意見を適切に伝えることができる 4. 社会人として求められる必要なコミュニケーションを実践できる 5. 医療従事者として必要なコミュニケーションを実践できる 6. 学生間、学年間でお互いに助け合い、円滑に議論を進めることができる									
学修者への期待等	自分と他者の考えやその表現方法の違いなどについて、できるだけ理解しようと心がけながら参加してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	【1～2年生合同】作業療法を学ぶ意義					特になし。				
2	【1～2年生合同】作業療法を学ぶということ ディスカッション					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
3	作業療法とは何か 作業療法の種類①グループワーク					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
4	作業療法とは何か 作業療法の種類②発表					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
5	理想とする作業療法像は何か①グループワーク					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
6	理想とする作業療法像は何か②発表					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
7	コミュニケーションとは何か					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
8	コミュニケーション能力①（自己統制と他者受容、傾聴力）					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
9	コミュニケーション能力②（読解力と要約力）					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
10	コミュニケーション能力③（伝える力）					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
11	社会人としてのコミュニケーション能力①（報告、連絡、相談）					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
12	社会人としてのコミュニケーション能力②（挨拶、電話の掛け方）					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
13	社会人としてのコミュニケーション能力③（メールの対応）					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
14	医療従事者としてのコミュニケーション能力①（言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション）					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
15	医療従事者としてのコミュニケーション能力②（ミラーリング、ペーシング、質問の仕方）					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 （30分程度）				
教科書	「わたし」を伝えるコミュニケーションワークブック 湯口 恭子 晃洋書房									
参考文献	適宜、紹介する。									
備考	【担当教員】外里 富佐江、齋藤 佑樹、酒井 弘美、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧 授業内課題の発表については授業内で講評を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMc05				
			●							
科目名	高次脳機能障害作業療法評価学演習				単位認定者	齋藤 佑樹		評価の方法	授業内課題（技術）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	O T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題（レポート等）	50 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	失語、失認、注意障害、半側空間無視、失行、遂行機能障害等の高次脳機能障害を持つ対象者に対する作業療法評価について、演習を通して適切な評価が行えるよう学修する。高次脳機能障害は、自動性・意図性により症状が変化する場合が多いため、評価時の声掛けの方法や観察の視点、解釈の方法等についても実践的な知識と態度を修得する。									
到達目標	1．各評価の目的・実施方法が説明できるようになる 2．各評価を基本手順で実施できるようになる									
学修者への期待等	難易度の高い内容を多く含みます。毎回の十分な予習復習と積極的な参加を期待します。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	高次脳機能の評価と治療の流れ（医用画像評価を含む）				授業内容をノートに整理し 復習してください（1時間程度）				齋藤 佑樹 戸田 祐子	
2	意識、見当識の評価（スクリーニング評価）								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
3	失語に対する評価								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
4	失認に対する評価								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
5	注意障害に対する評価（TMT、PASAT、CAT）								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
6	注意障害に対する評価結果の解釈								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
7	半側空間無視に対する評価（BIT）								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
8	半側空間無視に対する評価結果の解釈								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
9	失行、行為の障害に対する評価（SPTA）								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
10	失行、行為の障害に対する評価結果の解釈								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
11	遂行機能障害に対する評価（BADS）								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
12	遂行機能障害に対する評価結果の解釈								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
13	記憶障害に対する評価（リバーミード行動記憶検査）								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
14	記憶障害に対する評価の結果の解釈								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
15	知能障害に対する評価								齋藤 佑樹 戸田 祐子	
教科書	石川 朗 責任編集：15レクチャーシリーズ作業療法テキスト、高次脳機能障害・実習									
参考文献	適宜紹介します									
備考	ICT利活用教育（UNIPA上で資料提示、課題資料回収を行う）。回収した成果物は後日フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--